

総合教育会議 議事録

令和4年5月10日（火） 13時06分～13時51分

出席者

西平 良将阿久根市長，中野 正弘阿久根市教育長，大瀧 孝夫阿久根市教育委員，古賀 正男阿久根市教育委員，中野 真理阿久根市教育委員，西園 敦子阿久根市教育委員

事務局

中野総務課長，石澤教育総務課長，徳重学校教育課長，寺地教育総務課長補佐，落総務課行政係長，山下総務課主事

（進行）

お疲れ様です。

当初予定しておりました時間よりも少々早い時間となっておりますけれども、皆様お揃いでございますので、総合教育会議を始めさせていただきます。

それではまず初めに、西平市長から御挨拶申し上げます。

（西平市長）

どうも、こんにちは。

教育委員の皆様方におかれましては、日頃より教育委員会における基本方針の決定だったり、規則等の制定、また、学校訪問等各種行事への参加に、積極的に、出ていることに改めて感謝申し上げます。

御承知のとおり、本総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、これに基づき実施をするものでございますが、地方公共団体の長と教育委員会の連携の強化を目的として行われるものでございます。

本日の会議につきましては、学校規模適正化を図る今後の方向性について協議を行わせていただくものでございます。

本市におきましては、教育委員会におきまして、平成30年2月に阿久根市学校規模適正化協議会が立ち上がっております。

そして、「子供のよりよい教育環境とはどうあればよいか」、こういった視点に立って、意見をいただいたところではありますが、その結果、令和2年3月に、学校規模適正化について提言をいただいたところあります。

この提言をもとに、阿久根市学校規模適正化基本方針を定めて、学校規模の適正化に向けて、教育委員会として取り組んでいただいているところあります。

しかし、各小中学校の児童生徒の保護者、また地域においては、依然として様々な意見が出ているところであります。

つきましては、学校の統廃合の在り方を、統廃合の進め方について、今後の方向性につき、教育委員会及び教育委員の皆様方に、忌憚のない意見をいただくということで、お集まりいただいたところでございます。

本日は、どうぞよろしくお願い致します。

(進行)

それでは早速、議案に移らせていただきます。

本日の議案につきましては、学校規模適正化に係る今後の方向性に関すること及びその他となっているところでございます。

議案の進行につきましては、西平市長が行います。

それでは市長よりよろしくお願いいたします。

(西平市長)

はい、それではよろしくお願いいたします。

それでは、本日御議論いただきます議案の、まずは(1)学校規模適正化に係る今後の方向性に関することを議題といたします。

まず、これまでの学校適正化の取組に関する経緯と、それとこの間に実施しました保護者や地域住民の皆さんを対象としたアンケートの集約結果について、教育総務課の方から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

(教育総務課)

はい、それでは、これまでの経過及びアンケートの結果についてを御報告いたしたいと思っております。

まず最初に、これまでの経過報告でございます。

令和2年3月、阿久根市学校規模適正化協議会から、阿久根市小中学校の規模適正化、適正配置に係る提言を受けております。

同年5月には、この提言を受けて、市教育委員会が阿久根市学校規模適正化基本方針を策定いたしております。内容といたしまして、令和6年4月を目途とし、小学校を3校、阿久根小、折多小、脇本小に統廃合する。校舎は旧阿久根高校跡地を候補とする。中学校は2校、阿久根中、三笠中、校舎は阿久根中とする。3、脇本小、三笠中は小中一貫校連携型とし、将来は義務教育学校へ移行する、でございます。

この計画を基に、PTA、地域、議会への説明を行い、そこで出された意見を元に、市教育委員会では、令和3年5月に第2次阿久根市学校規模適正化基本方針を策定いたしております。内容といたしまして、1番阿久根小は現在の校舎を活用し、長寿命化計画をもとに改修する。2、令和6年4月の統

廃合に係る対象校について、学校によって保護者や地域住民の考えや意見等が異なることから、個々の学校の状況等に応じて進めていくことについても検討する。3、中学校は2校、阿久根中、三笠中、校舎は阿久根中とする。4、脇本小、折多小、三笠中は小中一貫校、連携型とし、将来は、義務教育学校へ移行する。5、通学の弾力化を追加する、でございます。さらに保護者、地域から、意見を聴取する必要があることから、令和4年3月31日を提出期限として、アンケートを実施いたしております。また、令和4年4月から、田代小学校は休校となっております。

以上がこれまでの経過の報告でございます。

続きまして、アンケート結果についてを御報告させていただきます。事前に配布させていただきましたアンケート結果を御覧いただきたいと思いますっております。集約表の方でございます。

まず1ページでございます。令和6年4月を目標に、新しい小学校、阿久根小学校と統合することについてでございます。各学校ごとに保護者の意見、地域住民の意見という具合に記載してございます。様々な意見がございしますが、学校として取りまとめているところ、結果のみを記載しているところという具合となっております。保護者の意見としましては、現在の学校を維持してほしいとの意見が多数を占めております。尾崎小につきましては、どちらとも言えないという、そういうところでございます。次に地域住民の意見でございますが、保護者の意見に従う、存続すべきなど、様々な意見が出されております。

次に、令和6年4月を目標に、新しい中学校、阿久根中学校と統廃合することについてでございます。対象となっております、鶴川内小、田代小、折多小、鶴川内中及び関係地域としております。保護者の意見としては、現在の学校を維持してほしいとの意見が、鶴川内小校区、鶴川内中校区では多い状況にございます。また地元の意見も、鶴川内中校区で、現在の学校を維持してほしいとの意見が多く出されております。

以上でございます。

(西平市長)

はい。

教育総務課の説明は以上になりますが、ただいま説明がありましたとおり、保護者、また、地域の皆様方からの、アンケート結果によりますと、今回の小中学校の統廃合に関しては、依然として様々な御意見があるよう伺えます。また、それは、各学校ごとによっても状況が異なるようであります。

そして、総体的には、現在の学校を維持してほしい、あるいは、現段階ではどちらとも言えない、という意見が多いように見受けられます。

第2次学校適正化基本方針の中では、統廃合することについて、小学校については、学校によって、保護者や地域住民の考えや意見等が異なることか

ら、個々の学校の状況等に応じて進めていくことについても検討するという
こととしております。

今回のアンケート結果を踏まえまして、市として、中学校を含めて、統廃
合の時期に関して、再検討が必要ではないかと思うところでございます。

私としましては、本市の学校規模適正化の基本理念のもと、今後も小、中
学校の統廃合の必要性を認識した上で、第2次学校規模適正化基本計画に掲
げました目標時期は、一旦、令和6年4月の統廃合は行わないこととしたい
と考えるところでございます。そして、今回のアンケートによります保護者
や地域住民の御意見、今後の児童数の推移、複式学級の状況等を踏まえて、
さらにも今後引き続き、保護者や関係者への意見や、すいません、説明や意
見交換を行いながら、改めてその時期については、お示しをしていきたいと
考えるところであります。

こういう考えで私はおりますけれども、このことにつきまして、委員の皆
様方から御質疑、御意見等があったら、よろしくお願ひしたいと思いますが、
委員の皆様、何かございませんでしょうか。御意見として何かありませんで
しょうか。

（大漣教育委員）

はい。

（西平市長）

大漣委員、どうぞ。

（大漣教育委員）

私は基本的にはですね、私たちも何回となく議論してきましたけれども、
基本的にはやっぱり、進めてほしいというのがあります。それはなぜかとい
うと、もう理由は前に提案があったようにですね、提言がなされていますけ
ども、それに基づいて、もう行っているところです。ただ、今、説明がそれ
ぞれのところからありましたけれども、個々の学校の現状、そういうもの
において、やっぱ異なってきたと、保護者の意見も様々にあると、いうよう
なことがあるならばですね、そういうところも考えていくべきじゃないかな
というふうに、まあ、いう気持ちでもあります。

ただ、考えることはですね、やっぱり、もう実施しないんだ、というそう
いうようなことじゃなくて、やっぱり教育っていうのは、経済社会の発展、
変化あるいは人口の動態、そういうところも含んで、そして学習指導要領と
いうのもやっぱり変わってきます。そういうものを踏みながらやっぱり毎年
毎年、教育の現状についてはですね、討議を重ねて、将来的には、僕はやっ
ぱり統廃合というのは絶対必要だと思いますから、やっぱそういう線に、将
来的には考えながら、やっぱ毎年、この問題については、議論していかなけ

ればならないと、私たちも適正委員会とかあるいは教育委員会のこの会議の中でもですね、臨時の教育委員会の中でも、話し合いを進めてきていますから、それをもっともっとやっぱり進めて、阿久根の将来、子供たちがやっぱり国際社会、グローバル社会を生きていく、そういう未来を保障する力は何なのか、やっぱり、根本的なそういうところを考えていくべきじゃないかなというふうに、正直に思っています。

以上です。

(西平市長)

ありがとうございます。

大変、貴重な御意見で、また、教育委員会にいらっしゃった先生ならではの御意見でした。ありがとうございます。

私もですね、このことについては先ほど申し上げましたが、統廃合する必要性というのは十分感じているところでございます。そういった中で、地域の声を聞くということも大事でありますし、そのことについては柔軟に対応していくということで、当初から行ってきてましたので、今回こういった御意見が出てるといえるのであれば、これはもうやむを得ないであろうという判断をちょっとしたところでございました。

他、何かございますか。

どうぞ、西園委員。

(西園教育委員)

まあ、実際、私の子供もまだ、学校に通っている段階なので、保護者の話を聞くと、やはり現段階では反対とか徐々にということ、今の環境に、満足ではないですけども、それなり保護者の考えもある中で、体験をと、学力をとそれぞれ、保護者の考え方もそれぞれなので、それに合わせて、多分、今、この現状の結果が出てと思うので、それで不足の部分はまた統廃合、どうしても減少傾向なので、いずれは統廃合をしないといけないという保護者の考えもありますけれども、今のこの現段階においては、やはり、それぞれ考え、子供たちとか保護者の環境も今、現状で、これで満足という結果がここではないかなと思ってます。

足りないところもあり、大きいところ、小規模校、メリット、デメリットは、わかった上での結果が出てと思うので、やはり、いずれは統廃合っていう形にはなると思うんですけども、それを一気にしなくても、やはりお互いに寄り添いながらっていう、しっかり説明をして、理解して、っていうのが1番いいのではないかな。と考えるところです。

(西平市長)

ありがとうございます。

現状の教育環境に決して不満があるということではないというのは、市の教育委員会としても、前向きに捉えていいことではないかと思っております。

貴重な意見、ありがとうございます。

ただやはり、委員おっしゃるように、今後、統廃合の時期もやはり来るじゃないかというそういうところもあると思いますので、またその際にはですね、丁寧な議論、そしてまた意見集約をしながら進めていければと思うところ です。ありがとうございます。

他に何かございませんか。

(中野教育委員)

はい。

(西平市長)

中野委員。

(中野教育委員)

はい。えーっと、まず、この第2次学校規模適正化基本方針に対する意見書を取りまとめていただいた、PTAの方、また、地域の方に深く感謝するところです。

その中で、1番感じましたのは、子供たちが健やかに育ってほしいという願いは、教育委員会もどこも一緒だと思っているところです。そこに向けて、様々な視点で、いろんなフィルターで、えーと、を通して、未来を生き抜く子供たちが培わなければならない力は何なのか、どうしたらその力を存分に発揮できるかということを考えていかなければいけないと思うんです。で、子供たちの可能性は無限大だと思っているんです。で、今実際、小規模校で満足している児童生徒がいるわけなんですけど、もしかしたら、また環境が変われば、もっともっと違う力を発揮できるのではないかというところも、あの、無きにしも非ずというところです。

ただ、今回このアンケート結果を見ますと、学校は、子供たちが、地域と関わり、愛着を育む場でもありますので、統廃合を巡る意見は、住民それぞれの立場によって、賛成か反対、二分してしまうと、子供たちの進路選択や、友達関係にまで影響があるのかなというふうに考えていますので、慎重に進めていく必要があると思います。

長い年月かけて、ようやくここまでたどり着いたかなというのが、私も正直な実感です。これを一旦、白紙撤回をするのではなくて、先ほど大漣先生がおっしゃいましたように、もうスパンを5年とかとか10年とかになると、本当にこの急速な教育環境も、このコロナの影響で、もう本当に一気に変わってきてるっていうのを、また子供を通して感じるころなので、長い期間を置かずに、短い期間で、1年ごとに、先ほどおっしゃったように1年ご

とに、考えていかなきゃいけないのかなっていうふうにも、思っているところですよ。

今後も、引き続き、保護者の皆さんの意見や地域住民の方の意見に、耳を傾けて、検討していったらなあというふうに感じたところです。

私が、一点、気になったところがですね、この、今、現在、尾崎小学校は3名の児童が通っているわけなんですけど、その中での、子供たちのためには統廃合が適当と考えているが、一部の地域住民の学校存続の熱意に対して、統廃合賛成の姿勢を表明、表示できない、あとは、地域住民は、地域の活性のために存続を希望しているため、小規模校に通わせ子供の将来を憂う親との意見がそもそも合致するはずがないなんていうのは、切実な保護者の思い、だけれども、今回、統廃合に関しては、結論としては、現段階ではどちらも言えないということで回答が来てるわけなんですけど、すごく重い感想だなと思っているところです。

こういった少人数の、何ていうんですかね、意見も、組みながら、あとは田代小学校が統廃合、統廃合じゃないですね、自分たちで、希望して、特認校を選んできたわけですけど、そこら辺の通学支援だとか、そんなのは、阿久根市でできるところは、サポートして欲しいところだなというふうに感じているところです。

以上です。

(西平市長)

ありがとうございます。

委員からの御意見の中でですね、私も、そうだなあと思ったのが、地域との関係性ですね。大規模の学校になると、一人の御意見っていうのは、なかなか浸透していかないんですけども、裏を返すと、小規模校の一人の意見というのが非常に大きな声としてのというのがあると思います。これがなかなか地元の方々と意見が双方に関係がある場合には、地域でもいろんなまた問題も軋轢も生みかねませんし、そういったところに配慮して、声を上げられない保護者の方々もいらっしゃる、それは、裏を返すと、地域にすごく大切にされてるんだなということになると思うんですよ。そういう思いで、委員のおっしゃった、地域との、この対立がなくなるような、市の取組というのは非常に大事だと思いますので、今、アンケート結果にあるような、心境を述べられた保護者の方も、どちらかというのは、それは、明らかになってないからわからないですけども、どちらともいえないという判断をしたというところは、非常に苦渋の選択だったんだろうと思います。大規模校、小規模校、色んな学校がありますけども、やはり、小規模校の方々の、この、御意見というのは、やはり大きいものがあるなと、私も改めて思うところでした。

ありがとうございます。

古賀先生どうですか。

（古賀教育委員）

今年に入ってからですね、大川小と、今日は西目小に一応、行ってきたんですが、大川小に至っては、もう全学年が複式学級となってますね、一つの教室では、三学年をですね、一人の先生が見るといような、そのような学級もありました。その現状を見る限りは、それはもう、やっぱり統廃合し、それなりの学校をつくらないかんということだと思いますが、今日の西目小に至っては、複式学級のクラスもあったんですけど、それなりに、いろんな実績もあがり、それに、あの、阿久根においては、良い学校である、と思います。

ただ1年生は、二人だけの、入学で、あと二人は特認校と、生徒四人しかないような状態が、今から続いていけばですね、当然また考えないといかんですけど、教育委員としては、今までは、もう統廃合と、一応、どう、学校を統廃合して、いろんなアイデアをまとめてですね、それなら協議したいと、それなら、どうするかということで、いろんな研修を行ってきました。

もう私もその、一応、統廃合、それが一番ベターだということ以来たんですけど、やはり、やっぱり一番大事なのは、地域ですね、その盛り上がりというか、反対の盛り上がりがあるときに、いやあ、それは、絶対せないかんというあれじゃなくてですね、やはり、その考え自体は、一応、子供たちのために、地域のためにはどうするかちゅうことはもうわかってますから、やっぱり、その、学年でゼロとかですね、現にありますけど、ゼロとか一人とか、それは学校にならんですから、やっぱりそれなりの規模の学校を作らないかんですけど、まあ、このですね、分厚いあれを見た範囲では、やはり相当な、やっぱりこう、意見があるなど。ですから、いろんなとこ、研修とかをしてきましたけど、今んところは、再度ですね、あとそういう盛り上がりも、考えながら、「やれる」じゃなくてですね、やっぱり、どうしたら納得してもらおう、どうしたらまたそういう体制に持っていけるか、ということを考えながら、進めていかんといかんなあと思ってるところです。

（西平市長）

ありがとうございます。

委員からも最後の方に出ましたけれども、白紙撤回するということでは決してありませんので、いずれはやはり、人口が減り続ける中で、教育環境をしっかりと整備していくことへの課題と向き合う時が来てしまうとは思いますが、その際に、地域の方々との意見というのをしっかりとすり合わせをしながら、そこにかかる相手にとって一番良い感触をしていくということも大事だと思いますので、そのことについてはまた、今後も、粘り強く、色んな意見交換をしていけたらと思うところでございます。

中野教育長の方から何かございますか。

(中野教育長)

はい。

先ほど課長の方から説明ありましたように、令和２年度から２年間、保護者、地域の方々への説明、意見交換会を開催してきました。保護者が４回、地域住民が３回、だったんですけど、この、昨年の１２月に、各小学校区でどのような意見であるのかを聞かせてくださいということで、取りまとめを依頼して、その結果がこの一覧表なんですね。ですから、結果については、私としてもしっかり受け止めたいと考えています。また、その説明意見交換会の中で、皆様の意見を基にして、こちらのほうも検討したいということを言いましたので、その検討結果でございますが、私の今、考えでも、他の委員と同じなんですけど、これだけ様々な意見がある中で、令和６年４月というのを行うことについては、かなり無理があると思っていますので、この令和６年の４月については行わないことにして、また、新たな方向性というのを考えていく必要があるかなと考えます。

その中でちょっと気になるのが、学校によっては、保護者も地域の方々も、進めてほしいという意見がある学校とか、それから、地域の方の中には、進めてほしいという意見がある、そういった学校についてどうするかということもあわせて検討していく必要があるかなと思っていますところす。

以上です。

(西平市長)

はい、ありがとうございます。

確かに、この統廃合に関して反対という意見ばかりでなく、むしろ、して欲しいという意見があるということも、これも両方意見として我々も、しっかりと受け止めなければならないと思っていますので、そこについてはですね、今後、このことについても、それぞれに配慮しながら、続けていかななくてはならないと思っています。ただ、まだ、そこまでの議論が成熟してないのかなというところもあると思いますので、今回については先ほど申し上げましたとおり、一旦、令和６年４月の、今回、明言しないということですね、行わないということでの決定をしたいと思っています。

(大漣教育委員)

市長、ちょっと。

(西平市長)

はい。

(大漣教育委員)

はい。

中野教育長に、ちょっとお尋ねしますが。

(中野教育長)

はい。

(大漣教育委員)

田代小は休校に入りましたよね。

(中野教育長)

はい。

(大漣教育委員)

あれはどういう経緯から来て、入っていたんですか。

(中野教育長)

もう、あの、話せば長くなるんですけど、コンパクトに言っていていいですかね。

令和2年度の段階では、1番最初の説明、意見交換会では、あそこの方は、校区の方が2名いらして、そして、山村留学で福岡から1名、出水から区域外就学で1名いらっしゃって、保護者的には4名、だったんですけど、皆さん、意見バラバラだったんです。

ですけど、あそこの良さっていうのは、そもそも数が少ない分だけ、全員が必ず参加をされて、そして説明を聞かれて、お互いに意見を、保護者同士でされたんですね。その中で、山村留学の保護者の方と、それから区域外就学の方は、自分たちはもう田代が良いと思ってきたけど、もともと住んでいる方たちの、保護者の意見が大事ですよっていうことを言われて、その校区内の保護者の方たちの意見をどんどん聞かれて、その2人の保護者の方が、自分たちも地域で育てられてるので、地域のことも考えたい、自分のことも考えたい、で、今の教育も大事にしたい、先のことも考えたいってそんなことをずっと何回も話をされた結果だったと思います。

で、この田代小学校の話がまとまったのは、今私がちょっと幾つか視点言いましたけど、まず自分たちとしては、子供の教育をやっぱり考えてあげたい。地域も大事だけど。その次に、今もだけど、先を考えて、やっていけないといけないということで、自分の子供のことと先の子供のことで、教育を考えて、もう自分たちは、今のこの、5名とかそういった数では、子供たちが先を考えると難しいのではないかということで、近くの小学校とかまた阿久根小学校の方に移りたいということをまとめられたんですね。

(大漉教育委員)

うん。

(中野教育長)

そのあとだったんですけど、地域の方々はどちらかというと、地域のために学校を残してほしいってが多かったんですけども、多かったというか、意見もあったんですけど、その地域の説明会の中に、その保護者の、お父さんでしたけど、行って、自分の思いを伝えたいということで、保護者の方が代表で出られて、皆さんの前で、自分たちの子供ってというのはここで育てられてきたけど、今後考えると、田代小学校ではなくて、ほかの小学校に、来年の4月からでも行かしたいということを、言われてからですね、地域の方たちも、もうそこで、わかりましたと、応援するよという声が出てきて、今につながったと思います。

ですので、今まで、地域の方を大事にしたいという方たちも、もうその言葉で、わかりましたという声が出てきましたので、そこからもう早かったと思いますね、ただこの休校と学校統廃合のところは、少し時間をくださいということでこのような形になったと思います。

よろしいでしょうか、それで。

(大漉教育委員)

はい、わかりました。

(西平市長)

あくまでもですね、この今の話、いろんな意見を聞いた結果の今の流れだというふうに私は思っています。

こういったことは、もちろん教育委員会としてある一定の方向性は決めていくという使命はもちろんあります。ですけれども、ここに至るまでの様々な協議会、あるいは意見を聞いた上で柔軟に対応していく、これも大事だというふうに思っております。

とは言え、一旦決まったものを、我々の思いだけで変えることも当然できませんので、それなりの手続を踏んで行っていくということになると、やはり、このような形で、しっかりと決定を伝えていくことが、大事だと思っております。このことはですね、私自身、ここはもうはっきりと明言しておりますが、決して何かに、方向性定まっていけないということではございません。決定したものの流れを強引に推し進めるということではなく、柔軟に対応していく結果、こういった意見もしっかり反映しながらやっていくということで、教育委員会としては、大変大きな仕事をしていただいている中でありますけども、そのリーダーシップについては、私からは、何も、本教育委員会に対し

て、その信頼は揺らいではないというところでございます。

今後においてもですね、いろんなお声があると思いますけども、先ほどから出ておりますように、子供たちの教育環境のこと、そしてまた、付随して、地域との関連性、これなくしては子供も育ちませんので、そのことをうまく取りまとめながら今後も進めていければという風に思っているところでございます。

他に何か御意見等ございますでしょうか。

何かありますか。よろしいですね。

はい。

ないようでございますので、学校教育に係る今後の方向性については、ただいま協議いただいたとおり進めていくということによろしいでしょうか。

はい。

異議がないようでございますので、協議のとおりさせていただきたいと考えております。

次に協議結果の今後の取扱い及び規模適正化の今後の取組の件について、教育総務課から説明があれば、お願いします。

(教育総務課)

それでは、今回、協議されました、結果の取扱い及び今後の取組についてを御説明いたします。

今回協議いただきました内容につきましては、今後、文言の整理、確認等を行い、5月30日に開催予定の学校規模適正化協議会にて御意見をいただき、その結果を基に、臨時教育委員会において最終決定をいただく予定となっております。

また、各学校及び地域において、今後説明会を開催していく予定となっております。

以上でございます。

(西平市長)

はい。

このことについて何か御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしいですか。

はい。

そのような順番手続を踏んでいきますので、よろしくお願いいたします。

次に協議、すいません、議案の2その他でございますが、教育に関することも含めて、本市の教育行政とその他何でもかまいませんが、何かございますでしょうか。

(西園教育委員)

市長，よろしいですか。

（西平市長）

はい，どうぞ。

（西園教育委員）

阿久根中学校の方が，今，学級数が２クラス，今の１年，２年が２クラスなんですけども，今度の１年生も，８８名で２クラス，１クラスに，まあ，４４名ということで，本当にこの今ソーシャルディスタンスを言われてる時代に，このコロナの換気とか，そういうところで，やっぱり教室に４４名ということで，国の方が４０名学級ということなんですけども，もう，本当に，少人数クラスというか，その辺りも，何か対策があれば良いなど，なかなか国の方針が変わらないところ，これからは３５人学級とかに進んで行くとは思うんですけども，その辺りもですね，早くこう進めてほしいというのがやっぱりですね，はい。

（中野教育長）

今，ちょっと，西園委員の認識が違うのかもしれませんが，特別支援学級の子たちが，例えば入学式なんかには，親学級に入ってくるので，４４って数が出てくるんですけど，今県のほうが３０人学級を言ってるので，恐らくですね，あの，３クラスです。

阿久根小学校は。

（西平市長）

阿久根中学校。

（西園教育委員）

中学校。

（中野教育長）

中学校？

（西園教育委員）

中学校。

（中野教育長）

中学校ですね。すいません，令和８年度ぐらいに３５人学級になってくるので。

(大漉教育委員)

令和 8 年。

(西園教育委員)

8 年。

(西平市長)

4 年後ぐらい。

(中野教育長)

ぐらいです。今で行くと。

ですから、今、令和 3 年度から始まったんですよね。

小学校 3 年生が順次。

(西平市長)

あ、その子たちが上がってくるときに。

(中野教育長)

令和 3 年度が 3 年生、令和 4 年度が 4 年に、ずっと、後は

(西園教育委員)

その代からってことで、全体じゃなくてですね

(西平市長)

どんどん変わるんじゃないくて。

(中野教育長)

予算の関係があるからですね。

(西園教育委員)

そうなんですね。

(中野教育長)

阿久根中学校はですね 91 名だったんですけど、直前で 3 名、私立に抜けて、88 って言ったら、今おっしゃるように、もうぎりぎりのですね。

(西平市長)

91 だったら 3 クラスだったんですね。

(中野教育長)

です。

(西園教育委員)

先生方の負担もすごくやはり大きくてですね。

それが本当に3クラスだったら、もう少し人数も変わって、当初はやっぱり、やっぱりそれだけの数、準備して大変そうなので。

(中野教育長)

阿久根中学校の場合はもう、教科によってですけど、指導法改善といって、プラス1名ついてますから、恐らく数学とか英語なんかは、その、40人だったら、また、半分に分けて、20、20人で授業ができる教科もできてるんですけど、まあですけど、ほとんどの教科は今おっしゃるような30何人ということになるのかなと思うんですけど。

(西園教育委員)

支援学級の子が抜けるんですけども、それでも2、3名ぐらいですかね、本当に隣の、移動するのも結構きついぐらいで、教室が広いわけでもないで、その辺りもですね、もうちょっと広い、教室だったり、まあ、色々な機器を使っただけの授業もあるので、まあ、その点も、うまく運用しながらじゃないと、なかなかこう本当にもう密の状態で、もうこれで感染予防って言うても、もう本当に、距離も近くて、子供たちも先生たちも気をつけてはいるんですけど。そうなんですね、また暑くなってくるとエアコンだったりとかもするので。気になるころではあります。

(中野教育長)

今の、この、児童生徒数の部分は、阿久根市だけの特色ではなくて、もう全部同じなので。で、教育長会でもですね、早くその35人学級を実現してほしいって言って、毎年、文科省の方には要望を挙げてるんです。ですけど、やっぱり、国のほうは、全国の学校見ないといけないので、今、出てきたのがその年度年度で来ていますからっていう、もうそこが精いっぱい。

ですけど、また今年も来年度も、そういう小人数のっていうところは、要望していきたいと考えています。

(西平市長)

そうですね、100人の先生が50人生徒を見るってことになりかねないわけですからね。

(中野教育長)

はい。

(西平市長)

それはなかなか、人材の今後、本当難しいところですね。

(大漣教育委員)

それは、もう、人数は、僕も経験がありますけど44～5人と24～5人をしましたけれども全然違う。

指導の仕方も、子供たちの理解度も授業の集中度も違う。

それはもうわかります。

(中野教育長)

前はですね、60人学級だったんです。大川中とか阿久根中とかもそうですけど、一学級60人だったのが、今は、それが40人になってきた。

(西平市長)

御意見としてはありがとうございます。

(西園教育委員)

はい、現状を、はい。

(西平市長)

他に何かございませんか。何でもかまいませんけども。

(中野教育委員)

はい。

(西平市長)

どうぞ。

(中野教育委員)

報告、報告です。

田代小学校から今2名の児童が、鶴川内小学校に行ってるんですけど、兄弟ですね、すごく楽しくって、同級生の、同性のクラスメートができたということで、もうすごく、喜んで、学校に登校しています。その中で、教頭先生が、田代小学校にいらっしゃった教頭先生が、そのまま鶴川内小学校に入られたっていうのと、あともう1人、事務の先生ですかね、が田代小学校の方から異動してくださってるので、子供たちにとっても、すごく心が安定した状態で過ごせてるかなっていう。

(西平市長)

顔見知りの先生がいらっしゃるっていうのは大きいですね。

(中野教育委員)

はい。だからすごく、良い感じで、楽しく、お友達がいるっていうことが楽しいって言って、すごく喜んで、登校してるところです。報告でした。

(西平市長)

ありがとうございます。

また、教育委員会で、訪問した際には、声かけされてみてください。

他にございますか。

よろしいですか。

(大漉教育委員)

はい。

(西平市長)

じゃあ、特にないようでございますので、以上とさせていただきます

本日予定しました協議議案は以上でございます。

円滑な審議に、御協力いただきまして、ありがとうございました。進行を事務局の方へお返しします。

(進行)

はい。

本日は、御協議の程、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了をさせていただきます。

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。以上とさせていただきます。

ありがとうございました。